

科目名	PBL 特論	担当教員	天野 一哉
科目属性	専門科目 B	単位数	2単位(面接0.5単位)
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>PBL(Project Based Learning)は、アクティブラーニングの一形態です。「学習者の関心、必要性に基づき、対話と省察を繰り返し、学習計画を立案、遂行することにより、ゴールに到達するメソッド」です。欧米ではスタンダードな学習法の一つであり、日本でも高等教育では大きな潮流となっています。また近い将来、初等中等教育等にも「課題解決型学習」の典型として普及していくでしょう。</p> <p>本講では、21世紀の教育を見据え、対話形式のスクーリングを通して、下の到達目標達成を目指します。</p> <p>この授業の具体的な到達目標は、以下の4点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 21世紀の教育に求められるものは何かを認識する。 2. PBLの必要性と手法を理解する。 3. PBLの実践力を涵養する。 4. PBLの指導法を身につける。 			
<p>【授業計画】</p> <p>授業は、主に、レポート課題提出、スクーリング、事後学習、科目修得試験(レポート方式)で構成します。</p> <p>全15回の授業計画については、下記のとおりです。ただし、本学は通信制ですので、以下の授業をすべて対面で行うわけではありません。スクーリングは、対話形式で以下の要点を総合的に実施しますので、テキスト、参考文献(任意)を読み、スクーリング事前・事後学修を行って下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 21世紀型学力 2 21世紀の教育 3 PBLの必要性 4 PBLの手法(1) 5 PBLの手法(2) 6 PBLの手法(3) 7 PBLの実践(1) 8 PBLの実践(2) 9 PBLの実践(3) 10 PBLの指導法(1) 11 PBLの指導法(2) 12 PBLの指導法(3) 13 プレゼンテーション 14 執筆 15 展望 			
<p>【評価方法】</p> <p>レポート20%、スクーリング30%、科目修得試験40%、その他10%で行います。科目修得試験の評価の観点は以下です。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) テキストを熟読・熟考している跡がみられるか 			

- (2) 学習指導書に沿って学習した跡がみられるか
- (3) スクーリングで学修したことを踏まえているか
- (4) テキスト以外の参考文献(学術的専門書・論文)を熟読・熟考している跡がみられるか
- (5) フィールドワーク(実地調査)を適切におこなっているか
- (6) 論理的か(論=主張、理=根拠が適切に記述されているか)
- (7) 抽象的な思考と具体的な事例が示されているか
- (8) クリティカルシンキング(批判的思考)ができているか
- (9) レポートの課題に対応した内容になっているか
- (10) 引用文献、参考文献の出典は明記されているか
- (11) 文章表記の問題はないか(推敲をしているか)スクーリング評価については、スクーリング時の積極的な発言および発表の内容によります。科目修得試験提出時に自己が策定したルーブリックに基づく自己評価を添付してください。

【教科書】

天野一哉. (2013). 中国はなぜ「学力世界一」になれたのか-格差社会の超エリート教育事情, 中央公論新社. ISBN-10: 4121504569 ISBN-13: 978-4121504562

【参考図書】

- (1) 天野一哉. (2014). 教職・教養・教免講習における PBL 型授業, MOST スナップショット・ギャラリー, 京都大学高等教育研究開発推進センター.
<https://most-keep.jp/keep25/toolkit/html/stitch.php?s=470138650825376>
- (2) OECD 教育研究革新センター. (2013). 学習の本質 -研究の活用から実践へ, 明石書店.
ISBN-10: 4750337854 ISBN-13: 978-4750337852
- (3) 松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター. (2015). ディープ・アクティブラーニング, 勁草書房. ISBN-10: 4326251018 ISBN-13: 978-4326251018